

令和4年度みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会 開催結果

○日 時 令和4年9月27日(火) 10:00~12:05

○会議方法 みどり市役所笠懸庁舎 第2会議室

○出席者 みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会委員 5名

○会議内容

(1) みどり市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について【資料1】

【委員意見】

○地方創生推進交付金と企業版ふるさと納税を活用している理由は。

⇒総合戦略事業を推進する中で、財源として有効に活用できるよう各交付金の対象に応じて二つの支援制度を活用している。

○非常によくできた計画だと思うが、総花的で物足りない印象を受ける。子育て、結婚支援を受ける立場になって考えると、魅力のある雇用が生まれればあとは自然についてくると思う。

(2) 令和3年度総合戦略検証委員会の意見について【資料2】

【委員意見】

○なし

(3) みどり市まち・ひと・しごと総合戦略(中期)のKPI結果について【資料3、4】

【委員意見】

《教育環境》

○コロナの影響で中止になる学校行事が多く、地域の伝統文化の行事も行うことができなかった。市民全体でまたそういうものに参加しようとか、実施していこうという意識が回復してくれればよいと思っている。

○みどり市はタブレットの導入が早く、子どもたちは大人よりもスムーズに使っているという印象を受けている。学校での教育以外にも、不登校などの状況にある子どもたちにも学習の機会を増やせているのではないかと思う。KPIの満足度は子供の立場でのアンケート調査かと思うが、親目線で見ると、もう少し評価してもいいと思う。

○タブレットについて、クロームブックが導入されているが、保護者から聞いた話では親がクロームブックに慣れておらず、子どもに聞かれても教えられないと聞いている。保護者にもタブレットの使い方を勉強してもらおう機会があるといいのではないか。

《結婚・子育て》

○結婚や出産は思い立ってすぐに結果が出るものではないので、コロナ下の状況を踏ま

えると、もう少し時間をかけてデータを取って検証していったらよいのではないか。
○子育てアプリなどはなかなかダウンロード数が増えず、とにかく周知方法を徹底するという対応が前面に出ているが、アプリはコンテンツありきだと思うので、こういったコンテンツが含まれているかということを考えてらいいのではないか。

《はたらく場》

○「みどり市の特性を活かした地域雇用の拡大」で、成果指標に「新規求人数」を設定しているが、一般的な求人数では「特性を活かした雇用」は測れないのではないか。この指標では、何をやっているのかわからない。

⇒「みどり市の特性」としては、地域資源を活用した農業や製造業の活性化、関連する産業での起業支援など、地域産業振興を課題としている。各施策の成果指標では農林業の従事者数や市の優遇制度を利用して事業所を新設・増設等した件数などを設定しており、「はたらく場の確保」の取り組みは多岐にわたるため、目標の成果指標としては雇用の底上げを目指すという点で、「新規求人数」を設定している。

今後の改訂に向け、ご意見を反映できるような指標が取れるか、検討していく。

○地域おこし協力隊は、職業を決めて募集しているのか、フリーで募集しているのか。

⇒林業や農業など分野を指定して募集している。

《民間協働》

○「ボランティア・NPO 活動をしている市民の割合」が低下していることについて、ボランティア活動は団体でやっている人も多いと思うが、コロナ下で行動が制限される中で、それぞれ団体内で対応を考えていると思うが、一つの団体の中で考えられることは少ない。例えば桐生市にはボランティア団体をサポートする事務局があるが、そうした気軽に相談に行けるようなところがあると、ボランティア活動がしやすくなるのではないかと感じている。

⇒みどり市でも市民活動をしている市民の割合がなかなか上がらないということを課題として捉えており、一方で市内でも活動されている団体の方がたくさんいらっしゃるが、その活動が市民の方に知れ渡っていないということも課題として捉えている。ホームページや広報等で活動を知っていただくということにあわせて、サポート体制については、みどり市には中間支援組織がないため、団体同士の横の連携を深めていただけるような取り組みなど、支援体制を模索していきたい。それまでは、企画課が市役所の担当窓口として、活動支援を行っていきたい。

《全員活躍》

○ポッチャ普及事業はとても良い取り組みだと思う。どのような経緯で取り組まれているのか。

⇒東京パラリンピックの際に、香港のボッチャチームのホストタウンとして手を挙げさせてもらったことが始まりで、ボッチャの普及に取り組んでいる。コロナの影響で香港のチームに滞在してもらうことはできなかったが、ボッチャは子どもから高齢者、障がいをお持ちの方も楽しめる競技であり、ボッチャ競技の普及を通じて共生社会の実現を目指している。

《交流推進》

○ふるさと納税件数は、みどり市の規模であればもっと増やせるということが以前から指摘されているが、令和3年度実績では急増している。さらに増やせるとも思うが、この急増した要因はポータルサイトが増えたこと以外にどう分析しているか。

⇒ポータルサイトを増やして間口が広がったことのほかに、返礼品を増やせるよう、市内事業所で生産されている商品をメニューに追加できるように取り組んだことも効果があったと考えている。

○ふるさと納税件数は増加してきており、めざそう値の設定が低い状況になっている。事業の実績を分析するにあたり、工夫があると良い。

(4) 地方創生関連交付金(地方創生推進交付金)事業の実績について

《みどり市元気プロジェクト》【資料5、6】

【委員意見】

○とても良い取り組みだと思うが、周知はどんな方法で行っているか。

⇒チラシの全戸配布や、ホームページ、みどり市公式ラインで参加者を募集している。また、関係団体に出向いたり、今年度は市内のショッピングモールのイベント会場で体組成計の測定体験を行い、利用された方に元気プロジェクトの案内を行った。

○事業を勧められても、参加に至るまでに敷居が高いところがあるのではないかと。働いている世代にとっては、参加しづらい要因が何かあるのではないかと。そこを工夫すれば、参加者が増えるのではないかと。

○若い世代が参加しやすくなるように、事業を変更する案はあるか。

⇒企業に出張訪問して、直接周知を行っているが、30代から50代の働き盛りの方、子育て世代の方は忙しく、また健康増進についてはまだ若いから取り組まなくても大丈夫だという意見も聞く。生活習慣病予防のためには、若いうちから健康に気を使っていたらいいと考えているので、周知方法を工夫していきたい。

《委員評価結果》

取り組みとしては、評価できる。

周知の仕方や若い世代へのアプローチに工夫しながら、事業を継続していく。

《赤城山広域連携サイクルツーリズム》【資料 7】

【委員意見】

○サイクリストは増えているのか。サイクルオアシスは、市内のどこに設置したのか。

⇒サイクリストの人数は数字的に捉えきれないが、県内のヒルクライムイベントには多くの人数が参加しており、増加傾向にある。赤城のヒルクライムは 3,600 人の参加者であった。感覚的には、国道 122 号を走るサイクリストを見る機会が増えているので、着実に増加していると感じている。

サイクルオアシスは、赤城駅、岡直三郎商店、小平の里、まちなか交流館、マルエドラッグみどり大間々店、草木ドライブイン、サンレイク草木に設置している。

○サイクリストが増えているということで、交流人口が増えてよいと思う。サイクリストのイメージ的には、走って通過していってしまうというイメージがあるが、広域連携で赤城山麓のいろいろなエリアがライバルだと思うので、みどり市の施設を有効に使ってもらい、いかにみどり市ファンをつくっていけるかというところを大事に進めてほしい。

⇒市内の魅力を高めてこちらに目を向けてもらうという PR も重要であるので、引き続き取り組んでいきたい。

○この取り組みにより、お金を使ってもらおうという気配が感じられない。成果として、経済効果としてお金にかえられないと、事業とは言わないのではないか。

⇒経済効果もあるが、お金ではかれない効果もある。交流人口を増やし、市の良さを知っていただくことや、スポーツを通じた健康増進など、いろいろな意味合いがあるので、その面でも評価いただけるとありがたい。

○事業の実施主体が DMO 赤城自然塾から前橋観光コンベンション協会となることの経緯や理由は。

⇒前橋市で観光振興を強化するために前橋観光コンベンション協会が設立され、DMO 赤城自然塾は統合される形となった。前橋市の道の駅にコンベンション協会が入っており、そこを拠点に広域観光も含めたツーリズムの主体を担うということで、事業を展開している。

○事業主体が変わったことで、これまでの意見にあったようなみどり市の PR の部分で関与の仕方は変わるのか。

⇒特に変わることはなく、赤城山広域連携サイクルツーリズムについては前橋市が事務局になっているので、引き続き連携して事業を進めることができる。

○事業としてゲーム性を含みながら、きちんと地域のお店で消費されるようになって、よく考えられていると好感を持っている。自転車で安全性が気になる場所があるので、対策をしっかりとされると良いと思う。

成果としては、参加された方がどのくらい消費したのかは測定可能なように思うので、その辺を調べて分析すると良いのではないか。

《委員評価結果》

取り組み内容としては好意的に評価できる。

効果測定については、みどり市に対してどのようなリターンがあるのかについて、効果測定できるものがあれば検討してほしい。